

## 前ヶ岳南壁 V 字第 2 スラブ

前ヶ岳は、会越-本名御神楽岳の前衛峰で、南面のスラブは登攀の対象になっている。大系や記録を見る限りでは、会越のアルパインの中でも取りつきやすい部類に思える。この週末は泊まりで楯戸沢に入る予定だったが、台風発生のために遭えなく計画を断念。台風一過が予想される日曜日に、日帰りで秋空を満喫することにした。

アプローチの霧来沢は癒し系でハイライトのスラブは快適そのもの。詰め上がった後、稜線の藪漕ぎはまあまあといった具合でほどよく疲れた。下山後には金山町の温泉を堪能した。

メンバー：K 牧、K 濱（記録）

山行日：2022.09.25 曇りのち晴れ

記録：御神楽岳登山口 6:30—V 字スラブへの二俣 8:40—稜線 12:30 頃—本名御神楽岳 13:40—14:00—登山口 16:45

登山口に続く林道の入り口は、新しく出来たトンネルのすぐ脇にあった。林道はかなり長く伸びていて、こんなに山奥まで入ってしまって大丈夫なのかな、と心配になる。道の状態はとても良く、落石や崩壊は殆どない。だが沢沿いの林道なので霧が立ち込め、どことなく不安を感じる。地形図上で登山道と林道が分かれる所に車を停めたが、出発してすぐに御神楽岳登山口の看板があった。ここが本来の登山口で駐車場のようだ。



登山口の看板 ここまで車で入れる



看板の裏からすぐに入溪、きれいな一枚岩

アプローチで使う霧来沢のすぐ脇には登山道がある。道を歩いた方が早い、沢を歩いた方が充実するに決まっている。看板の裏からすぐに沢へ降りた。前日の台風による増水はほとんど見られない。

穏やかな流れの中に広いナメ床とミニゴルジュが続き、癒しの溪相が続く。滝も 2 つほどあるが快適に登れる。上半身が濡れるような所はなく、せいぜい膝まで浸る程度。沢の周りは広葉樹で覆われていて、沢床には丸っこいドングリがいっぱい落ちていた。きっと紅葉の時期も綺麗だろう。ゆっくりと上半身の緊張が緩んで、心がリラックスしていくのが分かる。



一枚岩のナメ床



八乙女滝

今日の天気は台風一過の快晴予報だったが、朝から曇天で今一つパツとしない。二股を過ぎて沢が左に曲がるところで、目指す前ヶ岳南壁が姿を見せてくれた。タイミングよく太陽が顔を出して霧が晴れていく。

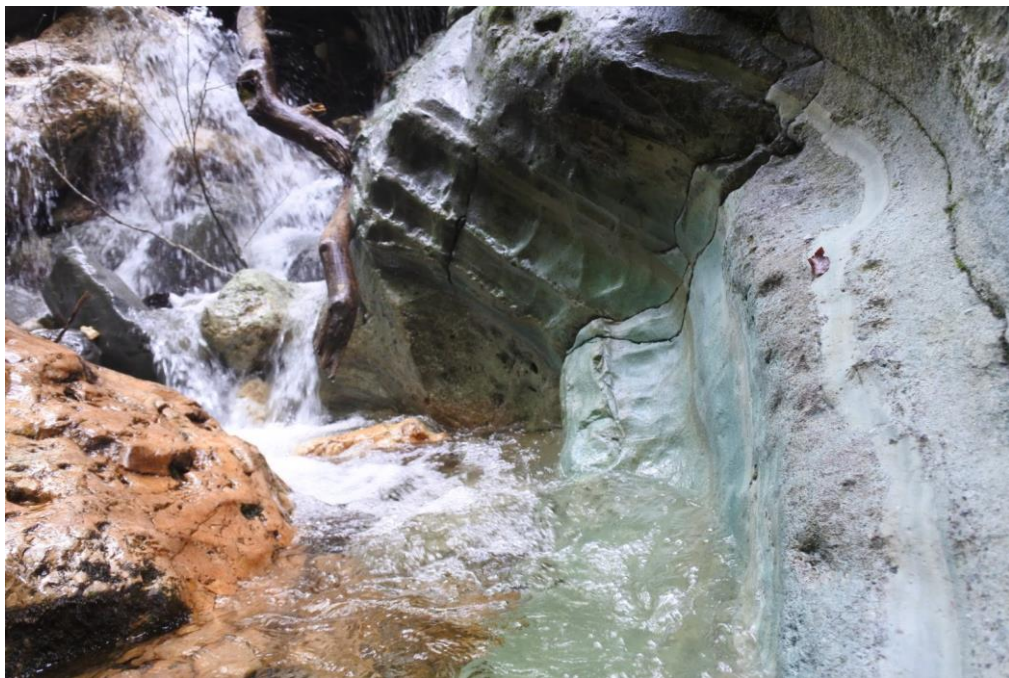


前ヶ岳南壁が見えた

地質の話題になるが、御神楽岳周辺の沢ではグリーンタフの露頭が観察できる。

グリーンタフは緑色の凝灰岩で非常に目を引く色をしているし、その成り立ちも特徴的でそる。日本列島がユーラシア大陸から分断されて現在の位置に近い所まで移動してくる頃に、海底で堆積した火山灰などの堆積物が、マグマの熱水変性作用で緑色に変色して緑色凝灰岩（グリーンタフ）になる。

日本列島が移動するエネルギーと地熱のエネルギーを同時に感じる事ができるロマンチックな岩相だ。色も綺麗。



水流に磨かれて露頭が良く見える。



基底礫岩がはっきり観察できる。時間と空間のギャップにロマンを感じる。

後で調べたのだが、この辺りのグリーンタフは中新世初期から中期の津川層という地層に相当するようだ。津川層は約1600万年～1200万年前の地層らしい。上層には砂岩泥岩と凝灰岩から成る天満層があり、さらに上部は泥岩主体の野村層、砂岩主体の常波層が重なる。

霧来沢の沢床はグリーンタフ（津川層？）上部のスラブ帯は凝灰岩層（天満層？）だったので、概ね指標の通りと言えるだろう。

御神楽岳周辺のスラブ帯では、砂岩泥岩主体の野村層/常波層が、豪雪と雪崩によって侵食され、凝灰岩主体の天満層が表出することで形成されているのかもしれない。

津川地域中新統の珪藻化石層序とテフラ層序に基づく年代層序

Age	Stage	Formations & Members	Column	Thickness (m)	Tephra beds	Lithology	Diatom zones NPD
Late Miocene	Teradomari	Tokonami Formation 常波層	Shinazawagawa section	200	Ubpg Ubpg	sandstone sandy mudstone	7B 7A
		Nomura Formation 野村層		240	Snsg Tmhc Stm Sng	diatomaceous mudstone	6B 6A 5D 5C 5B
Middle Miocene	Tsugawa - Nanatani	Tenman Formation 天満層	Shinazawagawa section	25-140	Otps	rhyolite hyaloclastite and tuff basalt lava and tuff breccia	
				0-75		dark gray siliceous mudstone glauconite sandstone (1.4 m) light gray calcareous mudstone	
Early Miocene	Tsugawa - Nanatani	Tsugawa Formation 津川層	Shinazawagawa section	350		biotite dacite lava and tuff breccia rhyolite lava and pumice tuff rhyolite pumice tuff tuffaceous sandstone and mudstone	
				20-300		rhyolite tuff and rhyolite lava arkose sandstone breccia, conglomerate	mollusca plant
pre-Neogene		Basement rocks				chert, slate, sandstone	

\*HB: Higashikoidegawa Basalt Member (東小出川玄武岩部層)

御神楽岳周辺は東面のスラブ帯が強い傾斜で立ち上がっているのに対して、西面は比較的穏やかな山容を有している。日本列島が形成される時に発生していた激しい力が、この山域の概念にも影響していると思うと感慨深い。

大きなガレが詰まった二俣で V 字スラブへの沢と、奥のスラブ帯への沢が分かれる。ここまでの穏やかさから一変して、一気に高度を上げていく。30 分ほど上ると一気に視界が広がる。



V 字スラブ

快適にスラブ帯を上がる。念のためにフラットソールを持ってきたが、ラバーの沢靴でも問題は無かった。V 字テラスから先でルーファイをミスってしまい、ちょっとシビアな所が出てくる。ロープを出して 2 ピッチ程登り、また歩き出す。

稜線に出ると石楠花の藪。空中戦を交えつつ本名御神楽へ続く稜線に向かう。登山道と合流してすぐに避難小屋があり、山頂直下には伊佐須美神社の祠があった。綺麗に手入れされていて、地元の方の信仰が垣間見える。



伊佐須美神社

下山は登山道を利用したが、想像より大変な登山道だった。鎖あり、はしごあり、渡渉&へつりあり。沢を降りた方が涼しいし楽かもしれない。

登山道から見るV字スラブは何だか凄い。上部はぶっ立って見えるし、激しい凹凸が格好いい。隣のスラブにも、反対側の御神楽沢にも近いうちに行ってみたい。



登山道から前ヶ岳とV字スラブ

記 2022.10.12